１　１１月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾　病　名	令和７年 11 月	令和６年 11 月
◆一類感染症 （発生なし）	０件	０件
◆二類感染症 ・結核	２８件	３２件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	９件	７件
◆四類感染症 ・レジオネラ症 ・レプトスピラ症	 ８件 １件	 ５件 ０件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・ウイルス性肝炎 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎※ ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性髄膜炎菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・梅毒 ・百日咳	 １件 １件 １件 １件 ７件 ２件 １件 ９件 ３４件 ５２件	 ０件 ０件 ３件 ２件 ３件 ２件 ０件 ６件 ３４件 ３件
◆五類感染症（定点把握疾病：第 45 週～第 48 週（11 月 3 日～11 月 30 日分）） ・報告数の多い疾病は①インフルエンザ（8,840 件：前月比 10.39 倍）、②マイコプラズマ肺炎（43 件：前月比 2.26 倍）となっています。		

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

2　トピックス

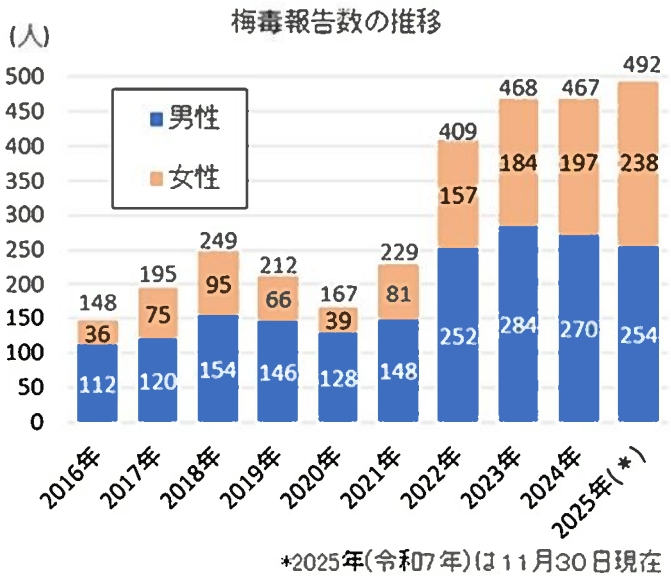
《～昨年よりも報告数が増加しています～》

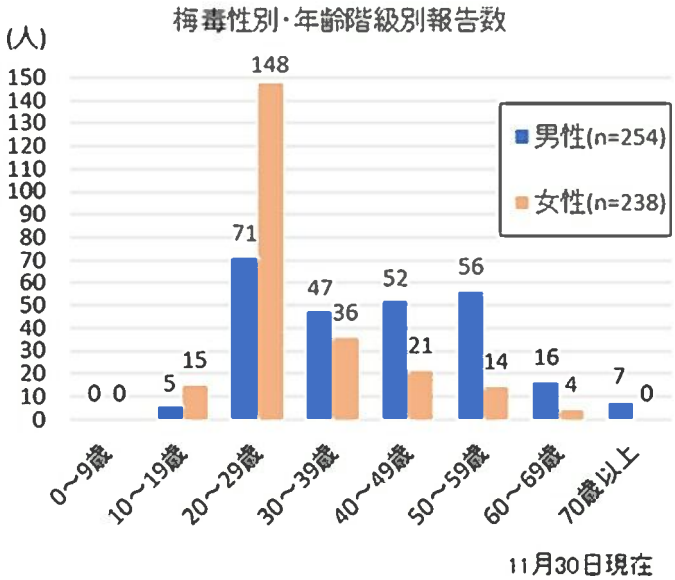
梅毒について

〇近年、全国で報告数が増加しており、名古屋市においても同様に増加傾向にあります。本市ではコロナ禍以降特に、毎年の増加傾向が続き、令和７年（2025 年）は 11 月 30 日時点で 492 件となり、平成 11 年施行の現行感染症法での最多の報告数となる見込みです。

梅毒に感染すると、10～90 日程度で性器付近のしこりや潰瘍、そけい部のリンパ節腫脹などの局所病変を生じますが、通常３～６週間で軽快し、その後全身に発疹が出現します。女性の場合は症状があっても気づかないことがあり、梅毒に感染したまま妊娠すると胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産や生まれた赤ちゃんに先天梅毒等が起こることもあります。

梅毒の主な感染経路は、感染部位と粘膜や皮膚との直接の接触（性的接触）です。感染部位と粘膜や皮膚が直接接触をしないように、性的接触の際はコンドームを使用することが勧められます。ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染がおこる可能性があるため、皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控え、早めに医療機関を受診しましょう。また、梅毒は一度治っても再び感染することがあるため、パートナーと一緒に検査・治療をすることが大切です。





梅毒報告数の推移（名古屋市、診断日集計）

〇HIV・梅毒検査について

名古屋市では、各区の保健センター等において無料の HIV・性感染症検査を実施しています。詳しい検査項目や日程は、下記の「なごや HIV・性感染症ガイド」でご確認ください。（一部の検査は事前に予約が必要です。）

《なごや HIV・性感染症ガイド》

URL：https://www.hiv-stiguide.city.nagoya.jp/

３ 病原体分離情報（令和７年 11 月分）

1. 令和７年 10 月７日発症、市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、市外在住、41 歳、男性の検体（結膜拭い液：10 月 12 日採取）から、上気道炎、角結膜炎、胃腸炎などの原因となるアデノウイルスの中でも、流行性角結膜炎を起こすことが知られているＤ種アデノウイルスの一つである**アデノウイルス 54 型（AdV54）**を遺伝子検査法により検出・同定しました。

2. 令和７年 10 月 20 日発症、市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、市外在住、46 歳、男性の検体（結膜拭い液：10 月 23 日採取）から、上気道炎、角結膜炎、胃腸炎などの原因となるアデノウイルスの中でも、流行性角結膜炎を起こすことが知られているＤ種アデノウイルスの一つである**アデノウイルス 54 型（AdV54）**を遺伝子検査法により検出・同定しました。

3. 令和７年 10 月 21 日発症、市内医療機関を受診し、熱性けいれんと診断された、住所未記載、11 歳、男児の検体（鼻咽頭拭い液：10 月 24 日採取）から、主に幼児に感染し、初感染時は発熱、咳、鼻水などの風邪様症を呈し、重症化すると下気道炎、クループを起こすことがある**ヒトパラインフルエンザウイルス２型（HPIV-2）**を、また、乳幼児に突発性発疹を起こすことが知られている**ヒトヘルペスウイルス７型（HHV-7）**を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

４ ARI サーベイランス実施状況

2025/10/29～2025/11/27 受付分（被検者　計 52 名）

検出されたウイルス	合計
AdV	3
HRV/EV	23
HPIV1	1
HPIV2	6
RSV-A	4
RSV-B	2
FluAH3	9
HCoV-NL63	2
SARS-CoV-2	3
Mycoplasma pneumoniae	9
計	62

＊同一患者での重複感染例あり

AdV：ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ，HRV/EV：ﾋﾄﾗｲﾉｳｲﾙｽまたはｴﾝﾃﾛｳｲﾙｽ，HPIV：ﾋﾄﾊﾟﾗｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ，RSV：RS ｳｲﾙｽ，Flu：ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ，HCoV：ﾋﾄｺﾛﾅｳｲﾙｽ，SARS-CoV-2：SARS ｺﾛﾅｳｲﾙｽ 2，*Mycoplasma pneumoniae*：肺炎ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

５ 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者より分離した百日咳菌（菌株）の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）　令和7年 第45週～第48週（11月3日～11月30日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告（50医療機関）													眼科定点報告（11医療機関）		基幹定点報告（3医療機関）						合計
	インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症による入院患者※	
千種	563	25	3	－	4	32	2	－	4	－	－	1	947	0	2								1,583
東	507	8	11	3	9	1	－	－	－	1	－	－	1,101										1,641
北	357	16	2	－	1	21	－	－	2	1	－	－	1,187	0	2	0	0	3	0	0	12	3	1,607
西	1,114	37	10	8	23	36	－	1	11	6	2	－	2,847	0	0								4,095
中村	390	15	8	－	4	32	－	－	－	－	－	－	674	0	2								1,155
中	475	14	－	－	－	24	4	－	－	－	－	－	1,373										1,890
昭和	262	30	－	－	－	11	－	－	1	－	－	－	241	0	0	0	0	14	0	0	25	5	589
瑞穂	101	15	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	80	0	0								197
熱田	110	10	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	228	0	0								349
中川	1,043	15	10	14	13	36	10	－	13	1	－	2	1,778			0	0	26	0	0	35	5	3,031
港	308	13	－	－	5	25	－	－	2	－	－	－	319										672
南	854	93	3	－	1	21	－	1	1	－	2	－	2,195	0	2								3,173
守山	839	10	－	－	1	23	7	2	3	－	－	－	1,410										2,295
緑	701	27	1	－	12	68	1	－	4	4	－	－	1,421	0	1								2,240
名東	974	17	7	10	57	32	1	－	13	2	－	－	2,396	0	2								3,511
天白	242	19	4	－	1	9	－	－	－	－	3	－	435	0	2								715
合計	**8,840**	**424**	**60**	**35**	**131**	**371**	**25**	**4**	**55**	**15**	**7**	**3**	**18,632**	**0**	**13**	**0**	**0**	**43**	**0**	**0**	**72**	**13**	**28,743**
前月	851	936	156	27	162	472	13	19	89	26	44	4	15,752	0	24	1	0	19	0	0	29	45	18,669
前月比	10.39	0.45	0.38	1.30	0.81	0.79	1.92	0.21	0.62	0.58	0.16	0.75	1.18	－	0.54	0.00	－	2.26	－	－	2.48	0.29	1.54
昨年同月	641	583	26	36	238	653	28	195	26	29	5	2	－	0	12	0	0	85	0	0	19	69	2,647

＊ 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（AR1）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が変更されました。（4月6日までは70定点、4月7日からは50定点）

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

／は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報）　令和7年 11月

	性感染症定点報告（15医療機関）				基幹定点報告（3医療機関）			合計
	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症	
千種	3	0	0	0				3
東								
北	17	5	5	13	2	0	0	42
西	0	4	0	0				4
中村	5	1	0	1				7
中	40	30	16	16				102
昭和	8	3	4	1	2	0	0	18
瑞穂	1	1	0	0				2
熱田								
中川	9	7	7	12	4	1	0	40
港								
南	0	1	0	0				1
守山	1	1	0	0				2
緑	7	0	0	5				12
名東	0	0	0	0				0
天白	7	1	2	2				12
合計	**98**	**54**	**34**	**50**	**8**	**1**	**0**	**245**
前月	111	81	40	39	9	1	0	281
前月比	0.88	0.67	0.85	1.28	0.89	1.00	-	0.87
昨年同月	113	53	47	61	7	1	0	282

注　　は、報告する医療機関がないことを表す。

11月分患者報告数	
週報分	28,743
月報分	245
合　計	28,988

令和7年　11　月の一～三類感染症発生状況　　(診断日で集計)

	疾　病　名	令和7年 11 月 患　者　数	令和7年計 患　者　数	令和6年計 患　者　数	令和5年計 患　者　数
一類感染症	エボラ出血熱	－	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	痘そう	－	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	－
	ペスト	－	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－	－
二類感染症	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	－	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H5N1)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H7N9)	－	－	－	－
三類感染症	コレラ	－	－	－	－
	細菌性赤痢	－	－	－	－
	腸管出血性大腸菌感染症	9　(2)	68　(15)	52　(15)	62　(13)
	腸チフス	－	－	－	－
	パラチフス	－	－	1	2　(1)
	合　計	**9　(2)**	**68　(15)**	**53　(15)**	**64　(14)**

注1　一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。
注2　(　)内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌　型	令和7年 11 月 患　者　数	令和7年計 患　者　数	令和6年計 患　者　数	令和5年計 患　者　数
O157	7　(1)	46　(5)	31　(6)	48　(6)
O26	1	3	5　(3)	4
O103	－	3　(3)	5　(1)	－
O111	－	2　(1)	2	－
O165	－	－	1	－
その他		5　(2)	2　(1)	1　(1)
型　不　明	1　(1)	9　(4)	6　(4)	9　(6)
合　計	**9　(2)**	**68　(15)**	**52　(15)**	**62　(13)**

注　過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核　新登録患者発生状況（月報）

11月

保健センター名	令和7年11月（※）			令和7年計（※）			令和6年計			令和5年計		
	活動性結核		（別掲）無症状病原体保有者	活動性結核		（別掲）無症状病原体保有者	活動性結核		（別掲）無症状病原体保有者	活動性結核		（別掲）無症状病原体保有者
	総数	うち喀痰塗抹検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹検査陽性者数	
千種	1	1	0	13	4	4	19	7	2	21	10	5
東	0	0	0	10	3	4	9	5	2	4	1	6
北	0	0	0	13	7	2	21	9	6	18	8	14
西	2	0	1	12	4	2	9	3	10	12	5	11
中村	4	0	1	17	4	12	22	2	7	21	4	10
中	1	1	1	18	8	17	17	7	6	21	9	12
昭和	0	0	1	8	2	7	18	5	2	13	2	6
瑞穂	0	0	0	7	2	0	8	2	2	8	2	3
熱田	0	0	0	6	1	4	10	2	3	3	1	4
中川	3	1	1	31	7	13	27	13	19	31	8	20
港	0	0	1	16	4	7	20	5	7	23	5	10
南	2	1	1	18	9	3	16	5	9	18	7	12
守山	2	0	0	16	0	1	26	11	5	21	12	11
緑	3	0	1	24	4	10	18	5	9	19	5	18
名東	1	0	1	11	5	2	10	4	4	10	4	7
天白	0	0	0	2	1	1	13	5	5	19	8	5
全市	**19**	**4**	**9**	**222**	**65**	**89**	**263**	**90**	**98**	**262**	**91**	**154**

※令和7年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾病名	令和7年11月 患者数	令和7年11月 備考	令和7年計 患者数	令和6年計 患者数	令和5年計 患者数
E型肝炎			5	4	5
A型肝炎	－		2	1	1
エムポックス	－		－	1	3
ジカウイルス感染症	－		－	3	－
チクングニア熱	－		1	1	－
つつが虫病	－		－	1	1
デング熱	－		－	4	6
日本紅斑熱	－		5	3	1
マラリア	－		2	1	1
レジオネラ症	8		54	48	32
レプトスピラ症	1		1	－	1
合計	**9**		**70**	**67**	**51**

注１　四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注２　44疾病のうち、過去３年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

（診断日で集計）

疾病名	令和7年11月 患者数	令和7年11月 備考	令和7年計 患者数	令和6年計 患者数	令和5年計 患者数
アメーバ赤痢	1		8	20	13
ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	1	B型：1 － －	B型：3 － －	－ － その他：1	B型：2 － その他：3
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		32	65	53
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－		－	1	－
急性脳炎※	1		4	15	17
クロイツフェルト・ヤコブ病	－		2	－	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7		25	46	22
後天性免疫不全症候群	－	－ － －	無症候性キャリア：20 ＡＩＤＳ：8 その他：2	無症候性キャリア：39 ＡＩＤＳ：17 その他：1	無症候性キャリア：55 ＡＩＤＳ：20 －
ジアルジア症	－		－	1	－
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		24	16	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	1		3	－	1
侵襲性肺炎球菌感染症	9		77	82	54
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	－		14	9	8
梅毒	34	早期顕症梅毒：23 － － 無症候梅毒：11	早期顕症梅毒：340 晩期顕症梅毒：6 － 無症候梅毒：146	早期顕症梅毒：315 晩期顕症梅毒：9 － 無症候梅毒：143	早期顕症梅毒：333 晩期顕症梅毒：4 先天梅毒：5 無症候梅毒：126
播種性クリプトコックス症	－		2	1	1
破傷風	－		2	－	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－		－	1	－
百日咳	52		927	35	16
麻しん	－		6	2	－
薬剤耐性アシネトバクター感染症	－		1	－	－
合計	**109**		**1,652**	**819**	**751**

※　ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注１　五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は７日以内に届出が必要。

注２　24疾病のうち、過去３年に報告のあった疾病のみを記載。

参考資料

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （７疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （７疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （５疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：27 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （４疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和７年 11 月 30 日時点）